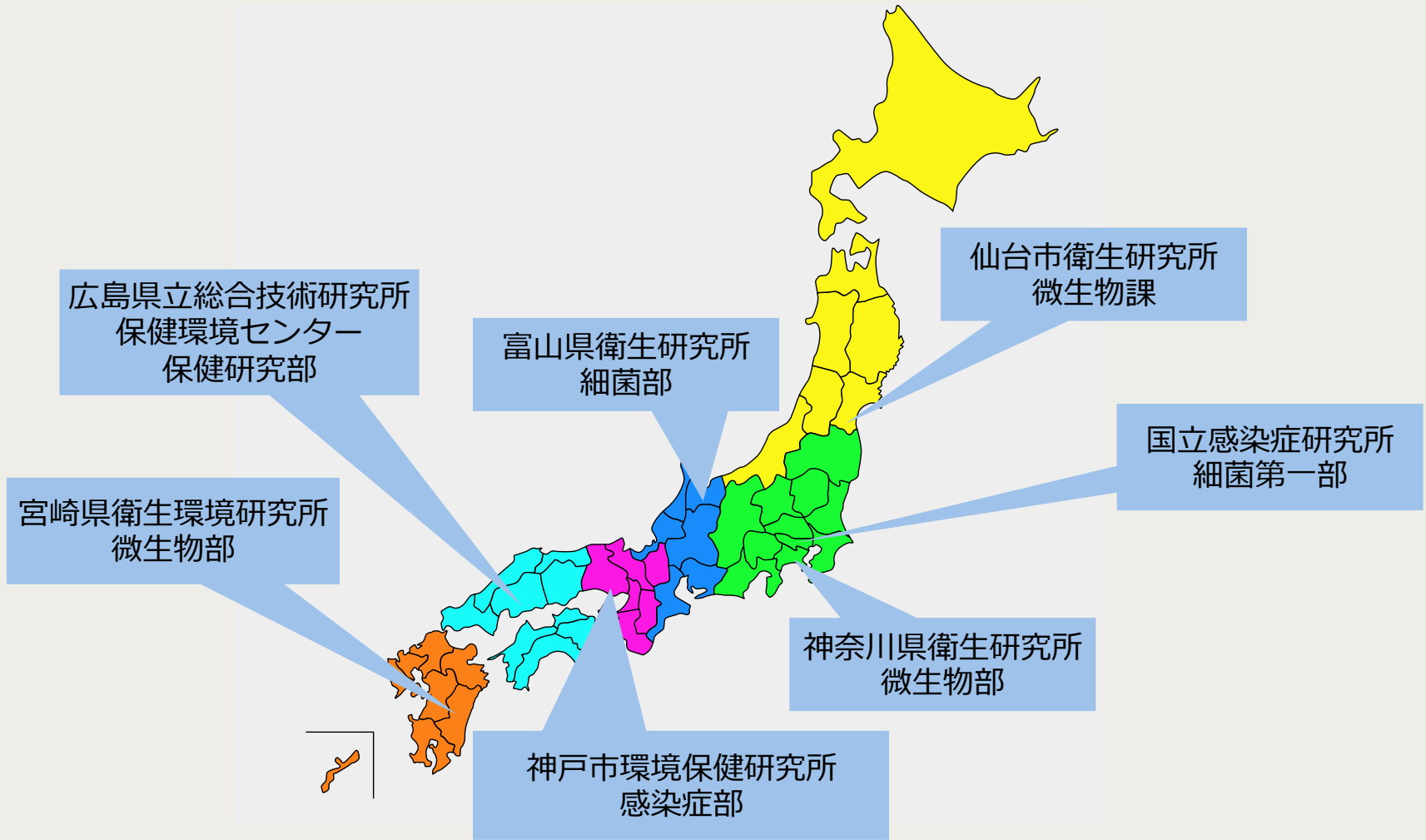


レジオネラ・レファレンスセンター会議



衛生微生物技術協議会第39回研究会
平成30年7月5日 ピアザ淡海

- 感染研センター報告

 - レジオネラ症発生動向

 - 臨床分離株の収集と遺伝子型別

 - 迅速検査実施状況

 - 外部精度管理

- 支部センター報告

- トピックス

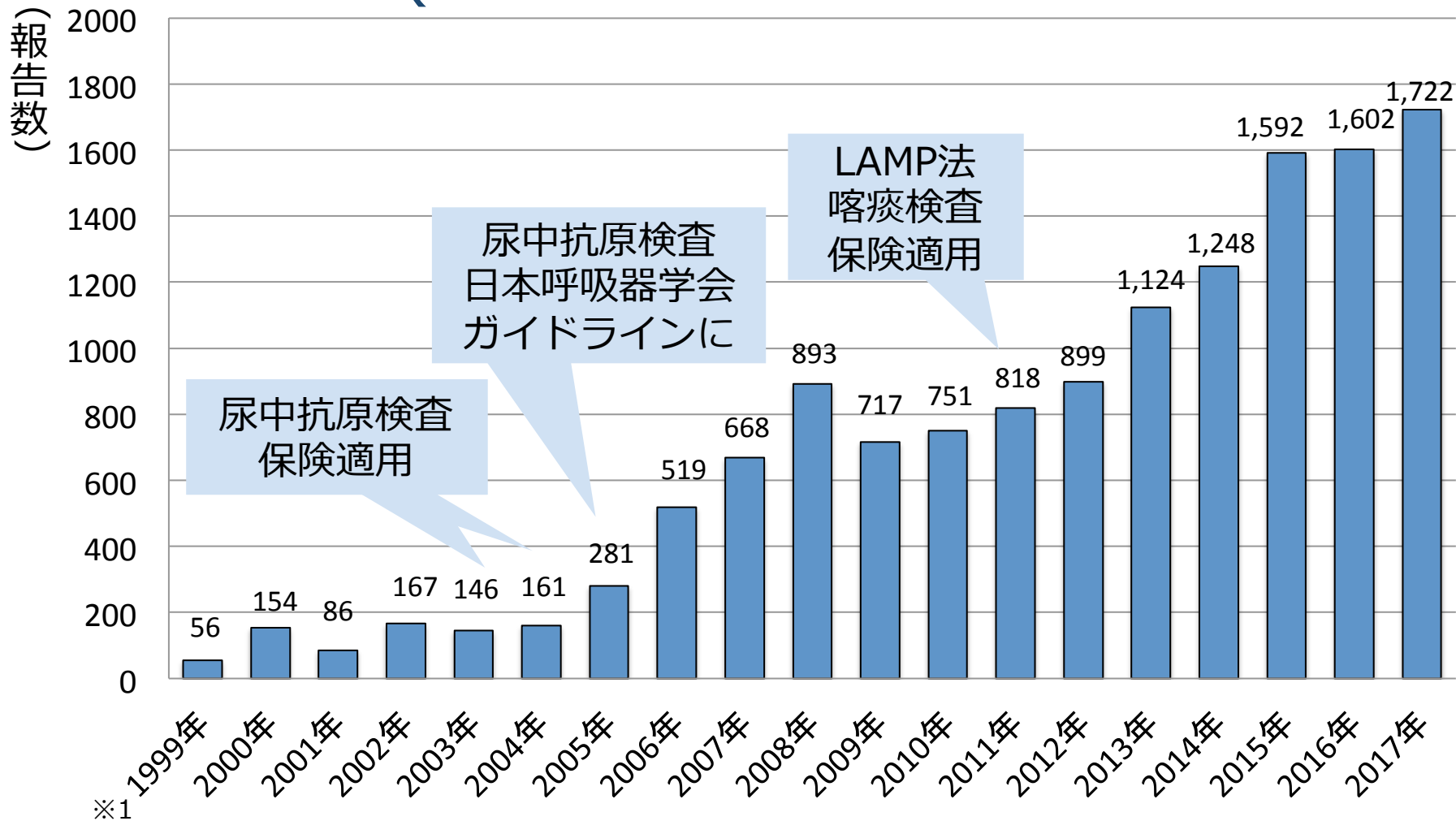
 - MLVA（神戸市環境保健研究所）

 - 加湿器を感染源とした集団感染事例

 - （大分県衛生環境研究センター）

年別レジオネラ症報告数

(感染症発生動向調査)

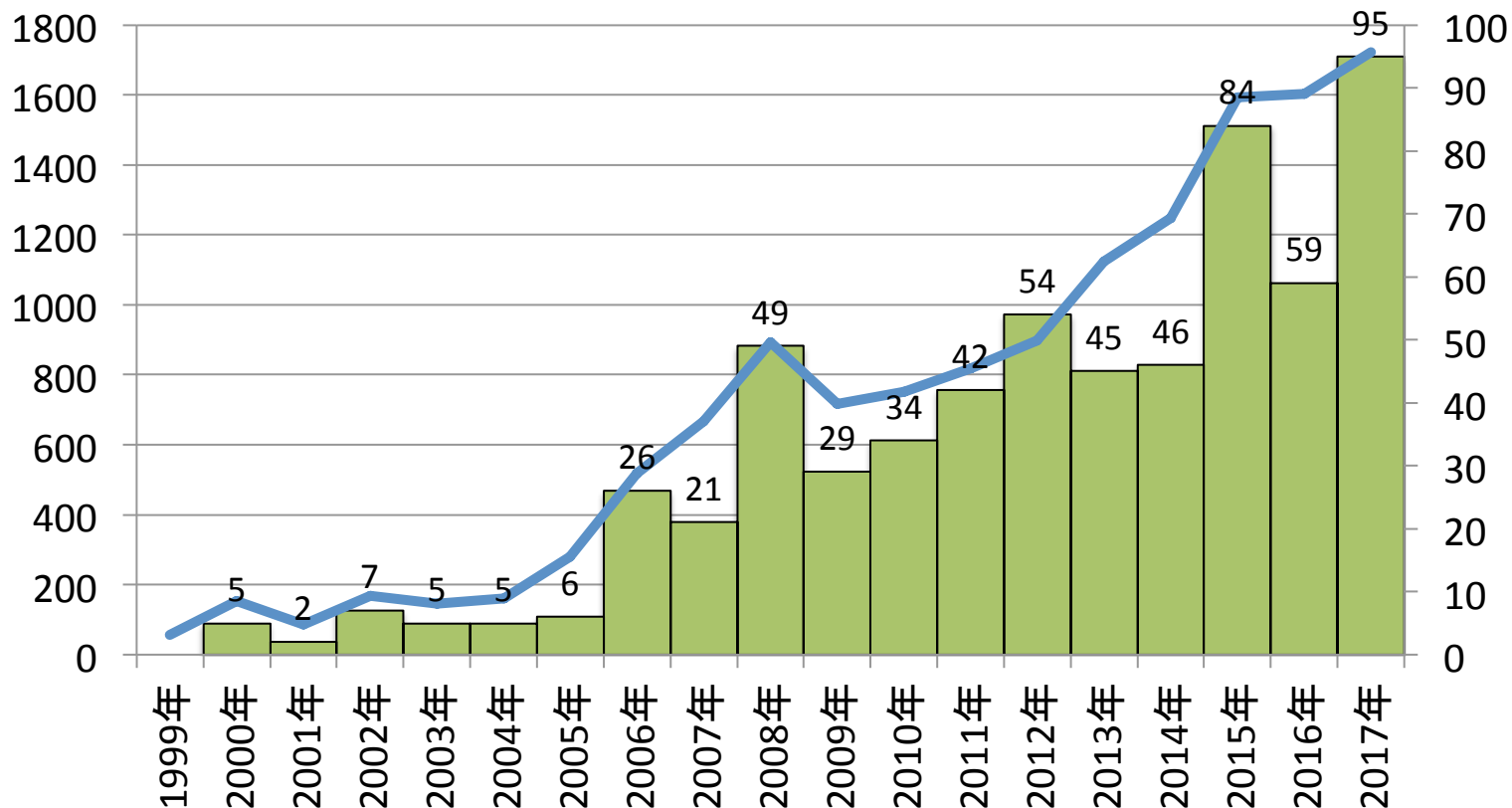


※1：1999年の報告数は4～12月までの数値である。

分離年別 収集レジオネラ臨床分離株 (2018年6月現在、2017年分まで)

報告数

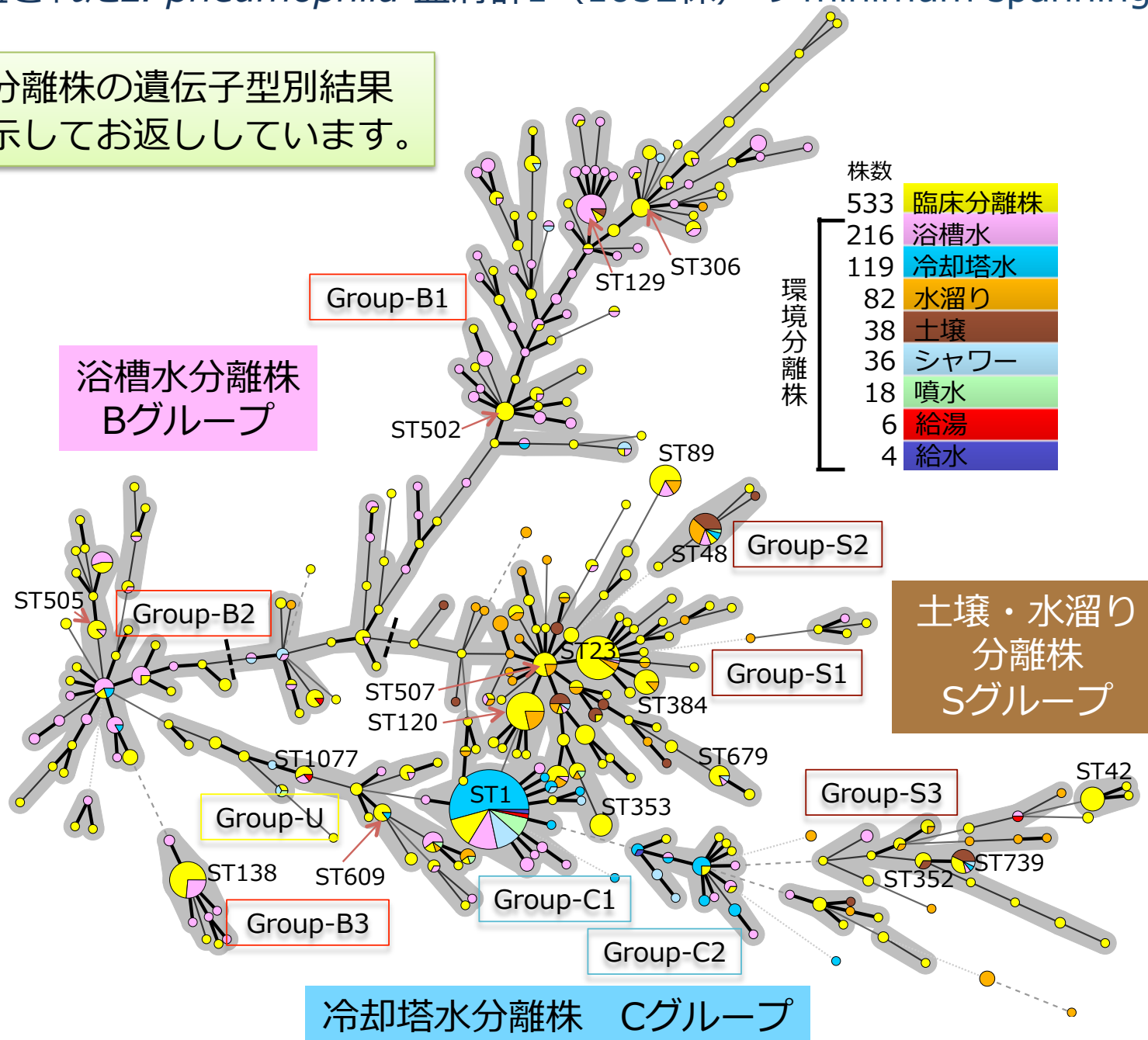
株数



レジオネラ・レファレンスセンターにおいて、
2007年8月よりレジオネラ臨床分離株の収集を行っている。
2017年度は88株受付。

国内で分離された*L. pneumophila* 血清群1 (1052株) の minimum spanning tree 図

臨床分離株の遺伝子型別結果を
図示してお返ししています。



レジオネラ迅速検査実施状況調査

昨年6月にレジオネラレファレンスセンターの
協力で実施。

- ◆ 環境検体、臨床検体のレジオネラ属菌検査に迅速検査法を導入しているか。
- ◆ 回答数：地方衛生研究所 74機関

レジオネラ迅速検査実施状況調査

結果

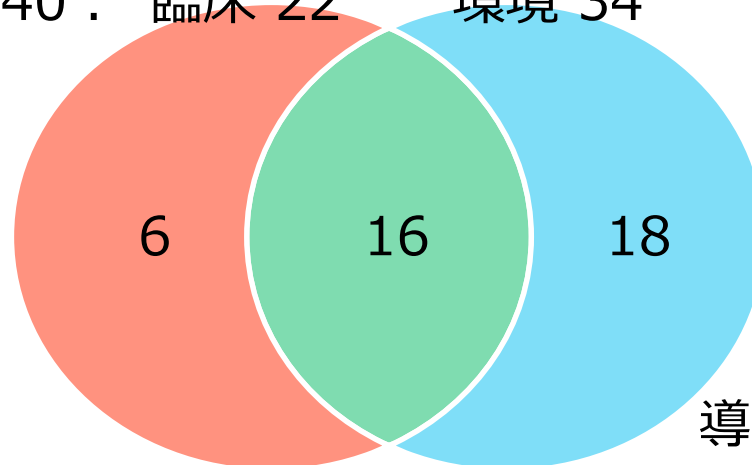
◆ 40/74 地方衛生研究所で導入。

臨床検査 22/74 機関

環境検査 34/74 機関

地方衛生研究所 74

導入している 40 : 臨床 22 環境 34



導入していない 34

レジオネラ迅速検査実施状況調査

結果

- ◆ 臨床検体で迅速検査（LAMP法）を実施 22機関
 - 全臨床検体で培養と並行してLAMP法を実施 17
 - 一部臨床検体で実施 5
- ◆ 環境検体で迅速検査を実施 34機関
 - 全検体で実施
 - 再検査
 - 患者発生時
 - 調査研究

培養法から迅速法に置き換えているところはなかった。

レジオネラ迅速検査実施状況調査

結果

◆ 環境検体	迅速検査を実施	34機関
	LAMP法	19
	リアルタイムPCR法	4
	LAMP/リアルタイムPCR	5
	記載なし	6

外部精度管理

- ◆ 厚労科研費で地衛研を対象に実施していたものを2015年から、対象を行政/民間に拡大して、日水製薬株式会社が実施。
- ◆ 2015年、2016年、2017年 と3回実施。

結果概要

(H27,28,29年度の良好施設割合の比較)

	H27	H28	H29	H26 (参考)
非濃縮①	91 (62/68)	97 (68/70)	99 (69/70)	—
非濃縮②	—	94 (66/70)	93 (65/70)	90 (37/41)
ろ過濃縮	62 (38/61)	77 (47/61)	75 (49/65)	65 (13/20)
遠心濃縮	36 (8/22)	56 (5/ 9)	80 (4/ 5)	—

% (良好施設数 / 参加施設数)

良好範囲外の結果を連続して報告している機関は、試料の混ぜ方、培地の状態、培地への各接種量が安定していたか、コンラージの力加減、濃縮操作等、改めて検査工程を見直し検証する必要があると思われる。

2018年度外部精度管理実施予定

－実施母体：日水製薬－

日 程	内 容
7月中旬	参加募集開始

今年もレジオネラレファレンスセンターを通じて
参加を募集します。